

第46回日本創傷治癒学会を開催するにあたって

東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 会長：真田 弘美
老年看護学／創傷看護学分野 教授

この度、第46回日本創傷治癒学会を2016年12月9日(金)～10日(土)の会期にて開催させていただくこととなりました。歴史ある本学会の大会長を務めることとなり、身の引き締まる思いです。

今を去ること8年前の事です。私が東京大学に赴任してきた時の最初の院生が博士課程に進学した時に、自分の目標は創傷感染の基礎研究を日本創傷治癒学会で発表することだと志を語ってくれたことを思い出します。当時のこの学会は看護師の会員資格は準会員のみであり、看護学の研究者はほとんど発表できない状況にありました。その後、時代の要請とともに創傷治癒学の領域を医師による研究ばかりでなく、チーム医療に関する臨床研究へと門戸を開いていきました。最近では、看護師、PTなどの発表も増え、本学会の多領域における医療者のプレゼンスも上がり、看護師が準会員だった時を考えると隔世の感があります。領域を越え若い研究者を育てる学会としての道を選んでくださった先達の理事長、ならびに理事の皆様のおかげに感謝するとともに、心から御礼を申し上げます。

本学術集会のテーマを、「創傷治癒学のインテグレーション——より学際的に、より実践的に、よりグローバルに——」としました。前述した趣旨を鑑み、創傷治癒学を推進する様々な学問分野、臨床分野がインテグレートされ、新たな地平線に臨むことを目指し、学際的に、実践的に、そしてグローバルに創傷治癒学が発展することを推進するという強い意志を込めました。看護学から初めての学術集会長を担うのは重責ではありますが、新しい息吹を創傷治癒学に吹き込み、インテグレーションを促進させていきます。そして、若手研究者・臨床家の発表を推進し、躍動する創傷治癒学の深化を皆様とともに実感したいと思っています。

本学術集会ではロゴを作成いたしました。WHはWound Healingの略ですが、Wは複数の楕円を重ねて、学際性を象徴する連携、協力を示し、温かみのあるHumanをイメージしたHの中にはグローバル化を意味する地球が配されています。このロゴが表すような実りある学術集会を準備する所存です。



NEWS
LETTER

日本創傷治癒学会
2016.1
No.91

●日本創傷治癒学会事務局

〒160-8582

東京都新宿区信濃町35

慶應義塾大学

医学部形成外科学教室内

tel.03-3351-4774

fax.03-3352-1054

e-mail: info@jswh.com

URL : <http://www.jswh.com>

また、本学術集会と同時開催として第10回東京大学アドバンス創傷ケアセミナーを開催いたします。本セミナーは、スキンケアや創傷ケアに関心がある臨床ナース、皮膚・排泄ケア認定看護師や研究者向けに東京大学にて毎年開催してきました。非常に最先端かつ高度な創傷ケアに関する知見を共有するセミナーであり、本学術集会と同時開催することで新しい出会いがあることを期待しております。

会場は東京大学本郷キャンパスの安田講堂並びに伊藤国際学術研究センターです。1925年に竣工した安田講堂は2015年に改装を終えたばかりであり、重厚な歴史と近代的な設備が融合した厳かな雰囲気を作らせています。アカデミックであり臨床

的である本学会の学術集会を、様々な歴史を見てきた本学のシンボルにて開催できることを嬉しく思っております。また、伊藤国際学術研究センターは赤門すぐそばに位置する煉瓦造りの建造物です。本学の社会連携拠点として学問と社会をつなぐことを理念におく本センターで、研究成果を社会に還元すべく、大いにディスカッションしていただければと思います。

12月の初旬は赤門と正門からのびる銀杏並木がたいへん美しい時期です。どうぞ、皆様、会場までのひと時を堪能してください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

WRRに会員の論文が掲載されました

会員の論文がWound Repair and RegenerationのVolume23 Issue No.6に掲載されました。論文名、会員の著者は下記の通りです。

投稿規程に関しましては、Wiley Online Libraryの本ジャーナルホームページの右側にあるナビゲーションバーより、〈JOURNAL MENU〉⇒〈FOR CONTRIBUTORS〉⇒〈Author Guidelines〉をクリックいただくか、以下のURL先を直接検索窓にコピー & ペーストして入手ください。

[http://onlinelibrary.wiley.com/journal/10.1111/\(ISSN\)1524-475X/homepage/ForAuthors.html](http://onlinelibrary.wiley.com/journal/10.1111/(ISSN)1524-475X/homepage/ForAuthors.html)

なお、投稿方法については、円滑な審査を行うために、2004年度よりオンライン投稿を推奨しております。

青木 茂久 先生(佐賀大学医学部 病因病態科学講座)

「A new cell-free bandage-type artificial skin for cutaneous wounds」

P.819～829

貝谷 敏子 先生(札幌私立大学 看護学部)

仲上 豪二郎 先生(東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 創傷看護学分野)

飯坂 真司 先生(東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 老年看護学／創傷看護学分野)

須釜 淳子 先生(金沢大学医薬保健研究域 保健学系臨床実践看護学講座)

真田 弘美 先生(東京大学大学院医学系研究科 老年看護学／創傷看護学分野)

「Cost-utility analysis of an advanced pressure ulcer management protocol followed by trained wound, ostomy, and continence nurses」

P.915～921

仲上 豪二郎 先生(東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 創傷看護学分野)

飯坂 真司 先生(東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 老年看護学／創傷看護学分野)

吉田 美香子 先生(東京大学大学院医学系研究科 ライフサポート技術開発学(モルテン)寄附講座)

真田 弘美 先生(東京大学大学院医学系研究科 老年看護学／創傷看護学分野)

「Microclimate is an independent risk factor for the development of intraoperatively acquired pressure ulcers in the park-bench position: A prospective observational study」

P.939～947

腹痛、腹部膨満感に

腹が冷えて痛み、腹部膨満感のあるもの

100

ダイケンチュウトウ
ツムラ大建中湯
エキス顆粒(医療用)

薬価基準収載



- 腸管通過障害に伴う腹痛、腹部膨満感に効果があります。^{1)~4)}
- 次の3つの機序による腸管運動亢進作用を示します。
 - 1) セロトニン3型、4型受容体を介するアセチルコリン遊離促進(イス、ラット、*in vitro*)^{5)~7)}
 - 2) 消化管運動亢進ホルモンであるモチリンの分泌促進(ヒト)⁸⁾
 - 3) 知覚神経におけるTRPV1チャンネルを介した作用(*in vitro*)⁹⁾
- CGRP、アドレノメデュリンを介して腸管(小腸、大腸)血流量を増加させます。(ラット)¹⁰⁾¹¹⁾
- アドレノメデュリンなどを介した抗炎症作用を示します。(マウス)¹²⁾
- 副作用発現頻度調査(2010年4月~2012年3月)において、3,284例中、64例(1.9%)72件に臨床検査値の異常を含む副作用が報告されました。(ラット)¹³⁾
- 重大な副作用は、間質性肺炎、肝機能障害、黄疸(いずれも頻度不明)です。

TRPV1 : transient receptor potential V1 CGRP : calcitonin gene-related peptide

効能又は効果

腹が冷えて痛み、腹部膨満感のあるもの

用法及び用量

通常、成人1日15.0gを2~3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

使用上の注意(全文記載)

1.慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) 肝機能障害のある患者[肝機能障害が悪化するおそれがある。] 2.重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。3.副作用 副作用発生状況の概要 副作用発現頻度調査(2010年4月~2012年3月)において、3,284例中、64例(1.9%)72件に臨床検査値の異常を含む副作用が報告された。(1)重大な副作用 1)間質性肺炎(頻度不明): 咳嗽、呼吸困難、発熱、肺音の異常等があらわれた場合には、本剤の投与を中止し、速やかに胸部X線、胸部CT等の検査を実施するとともに副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。2)肝機能障害、黄疸(頻度不明): AST(GOT)、ALT(GPT)、ALP、 γ -GTPの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。(2)その他の副作用

	頻度不明	0.1~5%未満	0.1%未満
過敏症 ^{注1)}			発疹、蕁麻疹等
肝臓	肝機能異常(AST(GOT)、ALT(GPT)、ALP、 γ -GTP等の上昇を含む)		
消化器	腹痛	悪心、下痢	腹部膨満、胃部不快感、嘔吐

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

4.高齢者への投与 一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。 5.妊婦、産婦、授乳婦等への投与 妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。 6.小児等への投与 小児等に対する安全性は確立していない。[使用経験が少ない]

*その他の詳細につきましては製品添付文書をご覧ください。

[文献] 1) Yoshikawa, K. et al. Surg Today. 2012, 42(7), p.646. 2) 壁島康郎ほか. 日消外会誌. 2005, 38(6), p.592. 3) 三木智雄ほか. Prog Med. 2000, 20(5), p.1110. 4) Horiuchi, A. et al. Gastroenterol. Res. 2010, 3(4), p.151. 5) Shibata, C. et al. Surgery. 1999, 126(5), p.918. 6) Satoh, K. et al. Dig. Dis. Sci. 2001, 46(2), p.250. 7) Tokita, Y. et al. J Pharmacol Sci. 2007, 104(4), p.303. 8) Nagano, T. et al. Peptide Science 1998, 1999, p.329. 9) 株式会社ツムラ社内資料 10) Kono, T. et al. J Surg Res. 2008, 150(1), p.78. 11) Kono, T. et al. J Gastroenterol. 2011, 46(10), p.1187. 12) Kono, T. et al. Journal of Crohn's and Colitis. 2010, 4(2), p.161. 13) 香取征典ほか. Prog Med. 2012, 32(9), p.1973.



株式会社 **ツムラ**

<http://www.tsumura.co.jp/>

●資料請求・お問い合わせは弊社MR、またはお客様相談窓口まで。Tel.0120-329-970

(2013年1月制作)

■使用上の注意等の改訂には十分ご留意下さい。 VO-1001